

投資の新「常識」⑧

「太陽光」4銘柄に注目

株式投資は多くの銘柄があって選ぶのが大変です。かといって不動産投資も難しそうです。他にどんな投資商品がありますか。



前回、投資は売却益だけではなく、配当利回りに着目したスタイルもあると述べました。株式の個別銘柄では3%や4%の高配当株がありますが、東京証券取引所第一部全体の平均では約1.5%です。最近の物価上昇よりは高いですが、日本銀行は2%の物価上昇率を目指しています。

将来2%が実現するなら、それを上回る利回りが欲しいところですが、個別銘柄は数が多すぎて選ぶのが難しい、という声をよく聞きます。

そこで、違った視点で高い利回りを得られる投資商品を考えてみましょう。注目したいのは「インフラファンド」です。

インフラファンドは、様々な企業がつくった投資法人が投資家から資金を集め、太陽光発電所や道路、空港などのインフラ施設に投資します。太陽光発電では、得た売電収入を投資家に分配します。投資家は安定収益が期待できます。

まだなじみが薄いですが、上場不動産投資信託(J-REIT(リート))と似た仕組みだと考えればよいでしょう。

東証には太陽光発電所に投資する4銘柄が上場しています。市場規模は約400億円、全銘柄の平均利回りは約5.9%です。

市場規模が小さく、多額を投資する機関投資家の売買による値動きにほんろさされにくいといえます。投資信託の投資対象になっておらず、投資信託の売りによる価格急落もなさそうです。ただ、思うように売れない流動性の低さという懸念があります。現在上

場している4銘柄とも太陽光発電設備に投資する商品で、分散投資もできません。

太陽光発電は一定の価格で電力を買い取る固定買い取り制度により、20年間の買い取り期間が決まっています。一度決まった買い取りの価格や期間は、一定の例外的な場合を除いて満期(20年)まで変更されません。

政府が決める太陽光発電の売電価格は、開始当初の2012年から半値近くまで下がり、成長力は期待しにくいものの、株式やリートより高利回りといえそうです。20年間の固定買い取り制度があることで、分配金の減額リスクは低い商品と考えられます。

リートも株式より高い配当利回りが期待できる商品です。市場全体の平均利回りは約4.1%と、株式の平均利回りの3倍近い配当収入が期待できます。ただ17年のリート市場は、日経平均株価の上昇に湧いた株式市場とは異なり、鈍い値動きでした。

なぜでしょうか。背景には、金融庁が毎月分配型投資信託の販売手法を問題視したことがあります。毎月分配型投資の資金はリートにも多く流入していましたが、金融庁の指摘を受けてこうした投資の販売が減り、リートからも投資資金が流出しました。

また、リートの価格変動の大きさを嫌気した投資家離れが起こっていたこともあるでしょう。リート市場の需給は改善してきたようですが、まだ道半ばのようです。

ファイナンシャルプランナー・深野康彦

11全12回



投資家

資金 ↓ 収益を分配 ↑

投資法人

投資 ↓

太陽光発電
設備など

「インフラファンド」 とはどんなもの？

太陽光は固定価格
買い取り制度で
安定収益が期待できる

半面…

現在の相場4銘柄は
太陽光発電投資のみ。
他の道路などへの
投資ファンドはなく、
分散投資ができない



ポイント

- 高利回りの投資商品としてインフラファンドにも注目。株式や上場不動産投資信託(リート)より高利回り
- 市場規模が小さく、流動性が低いため、売りたいタイミングで売りにくい可能性も
- リートも株式より高利回りだが、最近は金融庁の政策の影響で価格は低迷